

不活性ポリオ予防接種が始まります

生ポリオワクチンが中止となり、9月からは不活化ポリオワクチンの注射になりました。

次の対象者は、医療機関へ電話予約のうえ、接種してください。また、11月に予定していた生ポリオワクチン予防接種は中止します。

■対象年齢／生後3カ月～7歳6カ月未満

■接種料金／無料

■接種方法

生ポリオワクチン 接種回数	不活化ポリオワクチン接種回数
0回	4回（初回3回、追加1回）
1回	3回（初回2回、追加1回）
2回	接種不要

※初回接種は20日から56日までの間で3回接種。追加接種については未承認のため、承認後開始予定です。

※詳しくは市ホームページをご覧ください。

■必要物品／健康保険証、母子健康手帳

■医療機関（事前予約必要）

医療機関名	電話番号
あさじ医院	㊦0225
安積医院	㊦0361
荒木医院	㊦9711
小野寺医院	㊦3737
おりた外科胃腸科医院	㊦6000
さかいこどもクリニック	㊦0415
さたけ小児科	㊦1717
市立加西病院	㊦2200
西村医院	㊦0001
西村耳鼻咽喉科	㊦6020
堀井内科医院	㊦0150
みのりクリニック	㊦8470
医療福祉センターきずな	㊦2881

※医療福祉センターきずなは、通院または入院中に限る。

【問合先】 健康課・健康係 ☎㊦8723 FAX㊦7521 kenko@city.kasai.lg.jp

集団乳がん検診のお知らせ

乳がんは、定期的に検診を受け、早期に発見することで治る可能性が高いがんです。市で実施する集団乳がん検診を次のとおり行いますので、まだ受けられていない方は、ぜひこの機会に受けましょう。

■日程／10月1日（月）、15日（月）、11月5日（月）、19日（月）、12月6日（木）、7日（金）

■場所／健康増進センター（12/6,7は健康福祉会館）

■対象／40歳以上（昭和48年4月1日以前生まれ）の女性市民で、昨年度受けていない方

■料金／40歳代3,000円、50歳以上2,800円

■定員／各日30人（12/6,7は60人）

■申込／市役所健康課で電話予約を受け付けします。（12/6,7は9/5（水）から受付開始）

※市立加西病院で個別乳がん検診も実施しています。

【問合先】 健康課・健康係 ☎㊦8723 FAX㊦7521 kenko@city.kasai.lg.jp

結核予防週間について

9月24日（月）から30日（日）までは、結核予防週間です。結核は、現在でも国内で約24,000人がかかる感染症で、過去の病気ではありません。次の予防方法を参考に、結核の感染を防ぎましょう。

■予防法

・食事、運動、休養など健康管理に気をつけて、病原体への抵抗力を高めること。

・乳児は生後3カ月～6カ月未満の間にBCG接種を受けること。

・長引く咳や痰、微熱などのような症状が2週間以上続くときは早めに医療機関を受診すること。

・年に1回胸部検診を受けること。加西市では、町ぐるみ健診（20歳以上）、医療機関健診（40歳以上）で胸部検診が受けられます。詳しくは、4月に配布した健診特集号や市ホームページをご覧ください。



【問合先】 健康課・健康係 ☎㊦8723 FAX㊦7521 kenko@city.kasai.lg.jp

加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

院外処方と病棟薬剤師

■院外処方とは

加西病院では10月から院外処方を始めます。

院外処方とは、病院が処方せんを発行するだけで、薬そのものは病院外の調剤薬局で貰うと同時に、そこで服薬の疑問解消や指導を受ける仕組みです。この制度は「医薬分業」という専門性に基づく医療の役割分担を推進する国の方針から出たものです。

近隣の公立病院は数年前から院外処方を導入していましたので、加西病院はむしろ慎重であったと言えます。院外処方に踏み切ったのは、国が「病棟薬剤師」という制度を作ることが明らかになったためです。

■院外処方の利点と欠点

院外処方にも利点と欠点があります。

利点は、病棟薬剤師を創設できることです。病院の薬剤師の業務が薬の調合という言わば物を対象にした仕事から、入院患者という人を対象とした業務に変わります。これは、患者への密度の高い対応を行うチーム医療に貢献します。その成果は入院医療の向上となって現れます。また外来医療についても、院内薬剤師よりもずっと数が多い市内外の調剤薬局薬剤師によって患者への服薬管理が行われる結果、より良い薬剤治療が期待できます。

逆に欠点は、薬を貰うまでの時間が長くなります。これまで外来診療が終われば、後は家に帰るだけでし

たが、10月からは、病院を出た後に調剤薬局に行かなければなりません。処方せんの有効期限は4日間です。



薬剤部のメンバー

■医療制度改革と院外処方

現在、国は地域医療を制度改革しようとしています。その改革案では病院の役割は入院医療です。加西病院は市内唯一の急性期病院として豊富な診療科を揃え、病診連携を促進し、全体的なバランスを図ってきました。今後も市民患者の医療ニーズに応え、かつ医療者にとって医療し易い病院であり続けることが必要と考えています。

しかし、国策である入院医療体制の充実が、病院存続の最大の課題になることは避けられません。病棟薬剤師を置くことはその準備の一つであり、薬剤師のパワーを外来調剤業務から入院患者管理にシフトすることにより、入院医療の体制を強化します。院外処方化により外来患者の皆様には、調剤薬局を利用していただくことになりますが、入院医療の高度化と外来薬剤療法の管理の向上は、市民の利益に結びつきます。そして何時も訴えることですが、市唯一の急性期病院である加西病院を、市民の社会保障の砦として守ることが求められています。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）

熱中症の季節は続いています

熱中症は、屋内・屋外だけでなく昼夜を問わず発症し、9月に入った現在でも注意しなければなりません。熱中症は生命を脅かす危険性があり、残暑の厳しい9月も気を抜かず、熱中症について再確認しましょう。

症 状	処 置
■注意 めまい、立ちくらみ、こむら返り、大量の汗	➡ 涼しい場所（日陰や風通しの良い所等）へ移動し、安静にして水分を補給する。
■警告 頭痛、吐き気、集中力や判断力の低下など	➡ 涼しい場所へ移動し体の冷却、安静、十分な水分補給（塩分を忘れずに）に努める。
■危険 意識障害、けいれん	➡ 119番で救急車を要請し、到着するまで涼しい場所へ移動させたり、体の冷却に努める。

【問合先】 北はりま消防組合・加西消防署救急係 ☎㊦0119